

近畿とあおもり



宮越家（中里町）離れ襖絵「春・夏花鳥図」

近畿青森県人会

2025 新年号 No.69

ご挨拶

近畿青森県人会

会長 杉田 清和



明けましておめでとうございます。

近畿青森県人会会員の皆さま方には、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。平素は県人会に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナの影響もなく、会員の皆さまのご協力により、県人会の予定した行事は、すべて実施出来ましたことを、ご報告するとともにお礼を申し上げたいと思います。

今年は令和7年ですが、昭和で数えると「昭和100年」に当たります。

「昭和100年」は、昭和生まれとして、昭和という時代の歩みと共にあった自分の人生の大きな節目のように感じられます。

「（降る雪や）明治は遠くなりけり」という俳句が、昭和の時代にありましたが、最近は昭和を題材にした、昭和を懐かしむ歌謡曲やイベントの企画をよく目や耳にします。令和のいま、振り返るとまさに「昭和は遠くなりけり」と言われているような気分になってまいりました。

しかし、感傷に浸っている時間はありません。今年、近畿青森県人会73年目になります。昭和、平成と激動の時代を支え、未来への礎を築いた先人たちへの感謝と敬意を忘れず、次の世代へとその思いを引き継いで行かなければなりません。

この節目の年に、今までの歴史を大切にしつつ、全ての会員が、近畿青森県人会の旗の下に結集し、助け合い、親睦を深め、楽しく、そして県人会がふるさと青森

と会員をつなぐ架け橋になれるよう活動して行きたいと思っています。会長として、まだまだ未熟者ではありますがですが、精一杯努力してまいりますので、本年も会員の皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げますと共に、皆さま方の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



「あの人」元気だべがあ？
最近郷里に帰っていないなあ～
故郷の祭りにきやかだべがあ～
地元のニュースをもっと知りたい！
と思ったら
郷土の新聞・東奥日報をご覧ください！

東奥日報の購読申込みは、フリーダイヤル **0120-46-5939**
情報提供・広告のお申込みは、東奥日報社 東京支社 ☎03-3573-0701(平日9:30～17:30)

地域の話題満載！青森県の代表紙・東奥日報
Web東奥 検索

年頭挨拶

青森県知事 宮下 宗一郎



明けましておめでとうございます。近畿青森県人会の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、ふるさと青森を離れながらも、私達と心を一つに、様々な場面で本県のイメージアップや情報発信などに御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新しい青森県づくりに向けて、今年度から「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」がスタートしました。この基本計画では、「青森県を大きく変える」という高い志を抱き、青森県の改革を力強く前に進めていくた

め、基本理念に「AX (Aomori Transformation) ～青森大変革～」を掲げ、変革への起点となる「挑戦」、変革への道標となる「対話」、変革への翼となる「DX」の三つの基盤のもとに、二〇四〇年のめざす姿「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」の実現に向けた取組を進めていきます。

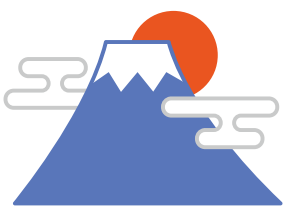
また、世界自然遺産「白神山」と特別史跡三内丸山遺跡などで構成される世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」という本県が有する二つの世界遺産をはじめ、豊かな自然、奥深い歴史・文化、新鮮で郷土色豊かな多彩な食などの魅力を強力に発信しながら、国内外の多くの方々に本県を訪れていただけるよう取組を進めるなど、青森新時代に向けた様々な施策に積極的に挑戦してまいります。

さらに、昨年は、上品な甘みとさっぱりとした食感が特徴の青森県産ブランド米「青天の霹靂」がデビュー十周年を迎えました。ほ

どよいやわらかさと粘りによるなめらかな食感が特徴の「はれわたる」とともに、品種ごとの優れた特性を最大限に発揮した県産米など、本県産業の強みを生かした、優れた青森県産品づくりを推進していきたいと考えています。

ふるさと青森へ深い愛情を持ち、応援してくださる皆様の御期待に添えることができるよう、時代が求める「実行力・発信力・スピード感」で力強く青森県政を前進させていきますので、皆様には、関西と青森を結ぶ架け橋として、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、近畿青森県人会のますますの御発展とともに、会員の皆様の御健勝と更なる御活躍をお祈りし、新年の挨拶といたします。



アプリ配信中です

地元のニュース素早くキャッチ

デーリー東北のアプリ「デーリー東北デジタル」は地域のニュースをいち早く、より詳しく提供し、皆さんの生活に役立つアプリとして好評を得ています。まだ、利用したことのない方はぜひダウンロードしてお試しください。

クーポンを使って
お買い得に買ってきたわ

速報が届いた。
青森でも桜が開花したんだね

まずは
無料ダウンロード

おかげさまで
10,000
ダウンロード突破

デーリー東北
DIGITAL

iPhoneの方はこちら
App Store からダウンロード

Androidの方はこちら
Google Play でダウンロード

デーリー東北新聞社

本社
青森県八戸市城下一丁目3-12
TEL0178-44-5111

ふるさとからの 新年メッセージ

みなとまち・あおもり誕生
400年と2025年大阪・
関西万博

青森市長 西 秀記



新年あけましておめでとうござ
います。近畿青森県人会の皆様
は、2025年の初春を心新たに
お迎えのこととお慶び申し上げま
す。

また、貴会が、近畿圏と青森県
の架け橋として日頃から本県発展
のため格別の御支援を賜っており
ますことに青森市民を代表して心
から感謝申し上げます。

さて、2025年は寛永2年

（1625年）に青森が開港して
から400年という節目の年であ
ります。

本市は400年前の開港以来、
港町として人や物が行き交うこと
で成長したまちであり、現代にお
いてもウォーターフロント地区で
の様々な催しに多くのお客様にお
越しいただいているほか、東北地
方で最も多くクルーズ客船が寄港
することで海外からのお客様にも
青森をお楽しみいただいております。
また、昨年4月には洋上風力
発電設備の設置及び維持管理に当
たつての基地港湾に指定され、今
後の洋上風力発電関連施設の増加
に伴って青森港のさらなる発展が
期待されるところであります。

今年は、「みなとまち・あおも
り誕生400年」に関連する催し
を多数準備しておりますので、足
をお運びいただきたく存じます。

また、今年4月に開幕する
「2025大阪・関西万博」には「東
北絆まつり」の一員として青森ね
ぶた祭も参加いたしますので、ぜ

ひこの機会に青森ねぶた祭、そし
て東北地方の祭りに触れていた
きたいと思います。

本市といたしましては、近畿圏
の皆様と交流する機会をさらに拡
大させ、「みんなで未来を育てる
まち」の実現に向けた取組を展開
してまいりますので、引き続き皆
様のお力添えを賜りますようお願い
申し上げます。

結びに、近畿青森県人会のます
ますの発展と、会員の皆様の御活
躍を心から祈念申し上げます。



「次の世代への継承」

弘前市長 櫻田 宏



新年あけましておめでとうござ
います。

近畿青森県人会の皆様におかれ
ましては、お健やかに新春をお迎
えのことと、心よりお喜び申し上
げます。

当市では、昨年二月、二酸化炭
素実質排出量ゼロを目指す「ゼロ
カーボンシティひろさき」を宣言
し、豊かな自然環境を守り、市民
が安全に安心して暮らせるまちを
次の世代に引き継いでいくため、
市民、事業者と連携しながら各種
施策を積極的に推進しております。

また、日本一の生産量を誇るり

んこの栽培につきましては、果実に侵入して食害を及ぼすモモシンクイガの発生に対し、令和八年度までの三年間で、病害虫の発生源となる放任園を無くすべく、昨年五月一日に「りんご放任園ゼロ宣言」を行い、七月一日には「りんご放任園解消チーム」を発足させて、関係団体と連携しながら集中的に取り組んでいるところです。

さらに、農繁期の人手不足といった課題に対しては、民間企業と連携し、りんご産業及びシードル産業の活性化を図るため、「ひろさき援農プロジェクト」を発足させ、生産者を支援するための「援農ボランティアツアー」を一昨年度から継続して実施しております。

本年は、青森県にりんごが植栽されてから百五十周年という記念すべき節目の年を迎えます。今後、弘前ならではの様々な取組に挑戦し、先人達が築き上げてきた日本一のりんご産地を、次の世代にしっかりと引き継いでまいりたいと考えております。

結びに、近畿青森県人会のますますのご繁栄と、会員の皆様のご多幸、ご活躍を祈念申し上げ、新年のあいさついたします。

「節目を迎えさらなる魅力の発信に向けて」

つがる市長 倉光 弘昭



近畿青森県人会の皆さまには、新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、日頃より近畿圏域とふるさとの架け橋としてお力添えを賜り、心から感謝申し上げます。

本市は、今年2月に市制施行20周年を迎えます。この記念すべき節目の年を迎えるに当たり、これ

まで培ってきた歴史・文化・地域の魅力を再認識するとともに、市民としての誇りや一体感の醸成を図り、さらなる市政発展の契機とするため、長編映画製作、姉妹都市交流、亀ヶ岡石器時代遺跡活用など、多彩な記念事業の実施に向けた準備を進めております。

昨年は記念事業の一環として、伊藤鉦業アリーナつがるで大相撲巡業が行われました。

令和6年3月場所ので110年ぶりの新入幕優勝を果たした木造中学校出身の尊富士関はじめ、本市出身の有望株である安響など県内出身の力士や、名誉市民である伊勢ヶ濱親方（元横綱旭富士）の登場で会場内3500人の観衆を大いに魅了しました。

また、第1号のふるさと大使として、TBS日曜劇場やCM出演などで活躍されている本市出身の俳優、生田俊平さんにご就任いただきました。今後さまざまな場面で市の魅力発信にご協力いただく予定です。応援よろしくお願いい

和歌山青森県人会会長
和歌山県相撲連盟会長

橋 本 剛

（鯨ヶ沢町出身）

〒641-0052 和歌山市東高松 2-2-21

☎ 090 - 2591 - 1666

和歌山青森県人会名誉会長

榎 本 篤 子

マルマンビル マルマン駐車場

〒640-8342

和歌山市友田町4丁目91番地

☎ 073 - 428 - 1515 FAX 073 - 428 - 1516

たします。

結びに、素晴らしい風土と自然に恵まれた「つがる市」に生まれ、育ち、生業を持ち、その人生がよかったと誰もが思えるまちづくり「ふるさと再構築」に、引き続き全力で取り組む所存でありますので皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

本年が皆様にとりまして、夢と希望に満ちた、さらなる飛躍の年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

「ウェルビーイング（心身の健康と幸福）を追求し、選ばれる黒石へ」

黒石市長 高樋 憲



明けましておめでとうございます

す。近畿青森県人会の皆様におかれましては、日頃より郷土愛を持ち、各界でご活躍されておりますことに敬意を表します。

黒石市は、昨年7月で市制施行70周年を迎えることができました。10月には、中心市街地のデパート跡地に市役所窓口機能や子育て支援機能を有する市民サービス施設「黒石市役所のまちセンター」を開館いたしました。市役所としての利便性を高めるとともに、市民の交流の場として中心市街地の活性化に寄与すると期待しております。

近畿地方においては、大阪府「くずはモール」での津軽地域の観光PRイベント「ツガルツナガルマルシェ」に参加させていただき、ゆるキャラ「にゃんごすたー」のドラム演奏も行われ、大いに盛り上がりしました。今後も近畿地方において、青森県及び黒石の魅力を発信し、交流の輪の取り組みを強化してまいります。

今年は、市民一人ひとりが地域

の未来に明るい希望を持つことができるような持続的なウェルビーイング（心身の健康と幸福）の実現に向けて取り組んでまいります。

幅広い世代の学びの場を創出する（仮称）子ども美術館」の建設に着手するほか、地域の公民館のコミュニティセンター化を進めることで、これまで以上に柔軟な施設利用を可能にし、より自主的で自由度の高い地域活動の展開と支え合える地域づくりに取り組むとともに、誰もが安心して暮らすことができる「選ばれる市」の実現に向け邁進してまいりますので、皆様のあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。結びに、近畿青森県人会のさらなるご活躍とご発展、そしてご多幸を心よりご祈念申し上げます。



「伝統と多様な資源を活かし地域の更なる発展へ」

八戸市長 熊谷 雄一



明けましておめでとうございます。近畿青森県人会の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、県人会の創立以来、経済・産業・文化など多方面において、当地域の発展のため御理解と御協力を賜っており、心より感謝申し上げます。

昨年は、2月に、長根屋内スケート場「YSアリーナ八戸」において、2019年の供用開始以来初となる国際大会「ジュニアワールドカップ」最終戦と「世界ジュニア選手権」が開催されました。

また、11月には、「四大陸スピードスケート選手権大会」が開催されたところであり、次世代を担うこどもたちにとって大きな刺激になるとともに、国内外からお越しの皆様にも、食・自然・文化など、当市の魅力に触れていただく機会となりました。

伝統行事におきまして、4年ぶりに通常開催となった八戸えんぶりでは、前年を上回る人出となり、国重要無形民俗文化財指定20周年を迎えた八戸三社大祭では、現在の集計方法となった2001年以降最多の入込客数を記録するなど、大きなにぎわいを見せました。

さらに、みちのく潮風トレイル全線開通5周年や、館鼻岸壁朝市20周年及び全国朝市サミットの開催、八戸都市圏交流プラザ「8page」の来店者100万人突破に、八戸北インター工業団地の分譲受付開始など、今後の観光・産業の振興につながる出来事や動きもありました。

迎えました本年も、受け継がれてきた伝統を大切にしながら、当市の多様な資源を活かし、豊かで活力ある地域社会の実現に向け取り組んでまいりますので、県人会の皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、近畿青森県人会の今後ますますの御発展と、皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

『歩み続ける。むつ市。』

むつ市長 山本 知也



新年あけましておめでとうございます。

近畿青森県人会の皆様におかれ

ましては、輝かしい新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

新年の目標は、ズバリ「歩み続けること」です！

能登半島地震、羽田空港航空機衝突事故と新年早々から衝撃的なニュースではじまった昨年も、振り返ってみれば県内力士の尊富士が110年ぶりの新入幕優勝を果たし、パリオリンピックでは日本選手団が獲得した金メダル、メダル総数いずれも過去最多を更新し、大谷翔平選手が所属するドジャースがワールドシリーズを制覇するなど、特にスポーツ界で明るいニュースが溢れました。

むつ市に目を向けると、市民の皆様をはじめ下北地域全体で全国の皆様をお迎えし、大成功に終わった日本ジオパーク全国大会の開催、日本で初めての「世界夜景遺産」の認定を受けた釜臥山展望台からの光のアゲハチョウ、二十四年の歳月を経て市民の皆様のご理解のもとに事業開始を迎えた中間貯蔵施設など、六十四年の

歴史あるむつ市政においても、記録と記憶に残る一年となりました。

新年を迎え、新しい年の目標を「歩み続けること」にしましたのは、メジャーリーグで二刀流という新しい道にチャレンジし、ワールドシリーズのチャンピオンになった大谷選手の愛読書『チーズはどこへ消えた?』の中から読み取れる言葉です。「変化は起こる。変化を予期し、大きな変化に備え、変化に素早く適応する。そして、変化を楽しみ、変化を恐れず、自分自身が変わろうとしなければ好転しない。」

ズバリこれは「歩み続けること」。物事は初めが大切。一年の計は元旦にあり。その言葉を年始に掲げ、変化を恐れず、歩み続けることをテーマに市民の皆様の笑顔を描いて参ります。

結びに、近畿青森県人会の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

市民ひとりひとりの「思い」 で輝く五所川原を目指して

五所川原市長 佐々木 孝昌



近畿青森県人会の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、当市出身の尊富士関が百十年ぶりとなる新入幕幕内優勝を成し遂げ、市民に大きな興奮と感動を与えました。市では、この歴史的快挙をたたえ、市民栄誉賞を創設し、第一号を授与するとともに、凱旋パレードを開催し、多くの方々と喜びを分かち合いました。尊富士関の活躍は、市民の誇りとして多くの方を勇気づけるとともに、まさに希望と活力を与えてくれてい

ます。

一方、一月の能登半島地震に始まり、各地で地震や台風等の自然災害が頻発し、自然災害の脅威に對する備えの重要性を再認識したところです。幸いにして、当市では大きな災害もなく、主要産業である米やりんごをはじめ、農作物の収穫状況は良好でありました。こうした米やりんごに加え、「金木の馬肉」、「十三湖産大和しじみ」や「市浦牛」など、市では彩り豊かな農水産物を返礼品に取り揃え、地域の魅力を発信するツールとして、ふるさと納税に注力しております。当市への寄附額は、県内でもトップクラスとなっており、これも偏に、応援して下さる多くの皆様のおかげであると感謝しています。

また、人口減少、少子高齢化が急速に進行する中、市では、二〇四〇年の状況を見据え、令和七年度からスタートする新たな五所川原市総合計画において、市の将来像を「市民ひとりひとりの『思

い』で輝く五所川原」と掲げ、市民の皆様と共に持続可能なまちづくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様におかれましても、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、近畿青森県人会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

「若い世代から選ばれるまちづくり」

鶴田町長 相川 正光



新年あけましておめでとうございます。近畿青森県人会の皆様におかれましては、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

す。

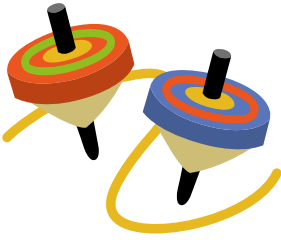
昨年は、アメリカ・オレゴン州フッドリバー市との姉妹都市交流が活発に行われました。3月には5年ぶりに中学生6名を中学生大使として派遣し、6月には高校生1名が約1年間の留学を終えて帰国しました。また、8月にはフッドリバー市から19名の市民が訪れ、日本文化の体験や町民との交流を通して親睦を深めました。フッドリバー市との姉妹都市交流も今年で48年目を迎えます。今後この貴重な経験が次世代の可能性を広げることを願っています。

また、鶴田町では子育て支援を充実させるため、保育料や学校給食費の無償化を実施しておりますが、さらに、保護者の経済的負担を軽減するため、小中学生を対象に教材費や修学旅行費、新入学準備費用の助成事業も開始しています。

地域活性化にも注力しており、令和元年に閉校となった旧水元中央小学校を地域活性化支援セン

ター「TSURUTA LABO」として
活用しました。この施設は、貸
しオフィスやコワーキングスペー
ス、イベントスペースを整備する
ことで、個人事業者や起業家など、
多種多様な業種・業界の人たちと
の接触機会が増え、交流すること
で、情報交換やスキルアップ、あ
るいは新たなビジネス創出といっ
た機会を得ることが期待できま
す。

今後も、町民と共に、若い世代
に選ばれるまちづくりに努めてま
いりますので、引き続きご支援と
ご協力をお願い申し上げます。最
後に、近畿青森県人会の皆様のご
発展とご活躍をお祈りし、新年の
挨拶いたします。



「希望に満ち活力 あふれるまち」を目指して

藤崎町長 平田 博幸



新年あけましておめでとうございます。
近畿青森県人会の皆様におかれましては、日頃より郷土愛
をもち、広くご活躍されておりま
すことに深く敬意を表しますとと
もに、藤崎町政にご支援ご協力を
賜り、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、かねて
より進めておりました平成三十一年に閉校となった旧弘前実業高等学校藤崎校舎をリノベーションして生まれ変わった「ふじさき産業文化交流施設リンゴカ」を供用開始いたしました。

施設一階には、「リンゴカ・

ミュージアム」という展示室があります。見て・触れて・体験して、楽しみながら「世界一の生産量を誇るりんごふじ発祥の地」である藤崎町の魅力を認識・発見できる展示室となっておりますので、皆さんぜひお越し下さい。

また、「相撲の神様」と言われた藤崎町出身の元大関大ノ里のしこ名に由来する、新大の里関が昭和以降最速の大関昇進を果たし、八月に藤崎町を訪れました。町では、大の里化粧まわし贈呈実行委員会を発足し、十一月に福岡市の二所ノ関部屋九州宿舎にて、りんごふじを日の丸のように配置したデザインの化粧まわしを贈呈いたしました。今後のさらなる活躍を町民一同願っている次第です。

今後も、「みんなで築く希望に満ち活力あふれるまち ふじさき」の実現に向け、ふじさき食彩テラスを拠点とした食の魅力づくりや移住定住の促進、子育て支援策の充実による人口減少対策など、これまでの取組をさらに発展させ、

町民が未来に希望を持てる町政運営に邁進してまいります。

結びに、近畿青森県人会のさらなるご活躍とご発展、そしてご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。

郷土愛を誇りに、 心のキャッチボール対話で

南部町長 工藤 祐直



新年あけましておめでとうございます。
近畿青森県人会の皆様におかれましては、輝きに満ちた新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

また、常日頃から、南部町発展のために温かいご支援とご協力を賜っておりますことに、深く感謝を申し上げます。

南部町ご出身の皆様には、霊峰名久井岳や清らかな馬淵川が織り成す豊かな自然と、四季折々の美しい風景が、ふるさとの象徴として、心に深く刻まれていることと拝察いたします。

昨年を振り返りますと、五月に環境省「かおり風景百選」に認定された「長谷ぼたん園」で、日本ぼたん協会の総会が開催され、全国多くの生産者や愛好家などに、園地をご見学いただきました。

六月にはさくらんぼの新品種「ジュノハート」が町営市場の初競りで9粒入り1箱35万円の最高値を付け、1粒当たりとしては過去最高額を記録したほか、ジュノハートなど7種類の果物を使用したフルーティーなクラフトビール「青森南部フルーツヴァイツェン」が新たに誕生しました。

また、10月下旬と11月上旬には国登録有形文化財である法光寺の承陽塔で初のライトアップが行われ、多くの拝観者が訪れるなど、様々な取組みが地域に活力を取り

戻すきっかけとなりました。

ふるさとは、日々の暮らしの中でふと立ち返る心の拠り所であり、その風景や人とのつながりが、皆様の心に温もりと安らぎをもたらしていることと思います。南部町は、本年も「住んで良かった」「帰りたいくなる」と思っていただけるまちづくりを目指し、町民の皆様と、心のキャッチボール対話をしながら職員一丸となって取り組んでまいります。

結びに、近畿青森県人会の皆様には、青森県との深い絆を大切にしてください。心から感謝申し上げます。皆様にとって新しい年が、さらに充実した素晴らしい一年となりますよう、お祈り申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



青森南部フルーツヴァイツェン

大空へ夢をはこぶ坂道

五戸町長 若宮 佳一



大空へ夢をはこぶ坂道、五戸町は坂道の多い町です。平安時代末期から存在したみちのくの「奥大道路」は江戸時代に入り、江戸を起点とする五街道の一つ「奥州街道」として整備され、町の中心部を南北に貫いています。奥州街道の三戸町蓑ヶ坂から南部町小向、五戸町浅水、五戸町中心部までの区間は、現在も良好な状態のまま残されています。1996年文化庁の「歴史の道百選」にも選定されました。

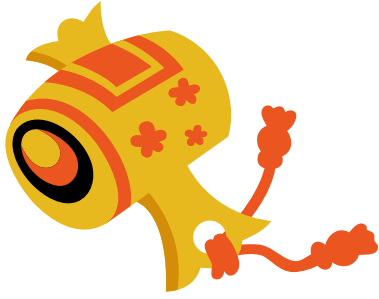
坂の多い町を重さ5tの山車が通ります。9月の1週目の週末は五戸まつりです。稲荷神社、神明宮、八幡宮の五戸三社約5キロの

行程をお神輿や豪華な山車がねり歩きます。その標高差は約50mです。八幡宮のあるところは標高35m、神明宮は標高88mです。この坂道をみんなの力を合わせ「よし、よいさー、よいせー、よいさつ」と引つ張ります。一番傾斜がきついところは堀合坂（図書館脇）です。傾斜15%の坂道を上る山車とそれを引つ張る引き子の勢いには、未来への希望を感じます。今年は町内小・中学校の児童生徒が多数参加し、まつりを盛り上げてくれました。町民が五戸まつりの感動と楽しさを享受し、次世代に継承できるよう努めてまいります。

町には五戸馬肉、あもり倉石牛、青森シャモロツクの三大肉を食べられるお店があります。「ごのへ三大肉」として売出し中ですので、そちらの方も合わせてご賞味お願いします。

近年、五戸町に新しく仲間が増えました。「五戸のおんこちゃん」です。町の木である「おんこ」の

木の精です。神出鬼没でおいしいものがあるところに現れます。普段は「にここここここ」していますが、食べ物の前では目をカーッと見開き野生を解き放ちます。友達もいます。シロという名前の白馬の精のようなものです。オノコンミーズというおんこの実の精もいます。「五戸のおんこちゃん」検索よろしくお願いします。時代は流れました。どんな坂道でも上り続けましょう。五戸町の坂道は大空へ続いています。大空へ夢をはこぶ坂道、一緒に駆け上がりましょう。



節目の年

「2025年」は賑やかに

鰺ヶ沢町長 平田 衛



近畿青森県人会の皆様には、新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、当町は、昨年、町制施行135周年を迎えました。町の玄関口である駅前広場の整備をはじめ、18歳までの子ども医療費無償化拡充、町民の健康や暮らしの充実に向けたQOL検診の実施、町内唯一の鰺ヶ沢高校の魅力化推進、また、移住定住の促進等のための多目的住宅を整備しました。

一方、関係人口の創出、地域の活性化を図るため、世界自然遺産「白神山地」や、津軽藩発祥の地「種

里城跡」、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」、ヒラメのツケ井や肉、スイーツを活用した「フードフェス」開催など、町の魅力である自然、歴史文化、食などの資源を鰺ヶ沢町の強みとして、町のプロモーションに努めています。

本年は、鰺ヶ沢町が昭和30年に赤石、中、鳴沢、舞戸の4村と合併して以来、70周年を迎えます。

また、北前船が運んだ津軽の京祭り「白八幡宮大祭」が開催されます。四年に一度の大祭ですが、コロナ禍と大雨災害で2年連続中止となり、8年ぶりの開催を控え、山車の常設展示や子供たちに向けたお囃子や踊りの体験学習会など、開催に向け機運を盛り上げる取組を行っています。

さらに、津軽藩の始祖大浦信濃守光信公没後500年という大きな歴史的節目の年を迎えます。

こうした奥深い歴史と伝統を受け継ぎ、新しい時代を切り拓いていくため、次世代にしっかりと伝え育み、まちづくりの基本テーマで

ある「歴史と海・山・川が人と人をつなぐまち 鰺ヶ沢」の実現に向けて、オール鰺ヶ沢で持続可能なまちづくりを推進してまいります。

結びに、今後ともふるさと青森県発展のため、尚一層のご支援をお願い申し上げますとともに、近畿青森県人会のますますのご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、新年のあいさついたします。

「未来へ挑戦する東通村へ」

東通村長 畑中 稔朗



新年あけましておめでとうございます。近畿青森県人会の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、各地区での円卓会議に
たくさんのご参加をいただき、防
災に関することや生活全般に関わ
ることなど、普段の生活の中で感
じている、貴重なご意見やご要望
をいただきました。また、村商工
会やシルバー人材センター会員と
の意見交換を行い、それぞれの視
点からのご提案や思いを伺うこと
ができました。

そして、村の未来を担う子ども
たちの意見を村政に反映させるこ
とを目的に、小学生を対象とした
円卓会議の開催に加え、四回目と
なる「中学生議会」を開催し、子
ども達が普段の生活で感じてい
る、教育設備等の充実や地域の活
性化についてなど、様々なご提案
をいただきました。

いずれも私が大切にしている施
策でありますので、貴重なご意見
やご提案を、今後の村政運営の参
考にさせていただくとともに、実
現に向けて努力して参りたいと考
えております。

また、農家・漁師の方々との意

見交換を通じて新たな施策を展開
したほか、昨年度から住民主体に
よる各種イベントを開催し、住民
の積極的な村づくりへの参加が着
実に進んでおります。

今後も村民が主役の村政運営実
現に向けて、村民の声を村政に反
映させるための施策を柱に、未来
をつくる「ひとづくり」、未来を
牽引する「しごとづくり」、一人
ひとりに寄り添う「くらしづく
り」、そして村民のいのちを守る
「むらづくり」を実施すべく、施
策を展開して参ります。

近畿青森県人会の皆様方には、
郷土発展のために、今後とも一層
のご指導ご支援を賜りますようお
願い申し上げます。

最後に、会員の皆様の益々のご
健勝とご多幸、ご活躍をお祈り申
し上げまして、新年のお祝いの言
葉とさせていただきます。



決め手くん

梅田ドーチカの青森・岩手の県産品アンテナショップに

是非おこしく下さい！



おわんこきょうだい



青森・岩手 ええもん

AOMORI・IWATE ANTENNA SHOP



住 所 大阪市北区堂島一丁目
堂島地下街6号
(梅田・ドージマ地下センター)

電話番号 06-6346-0888

営業時間 11:00 ~ 20:00

定休日 毎月第3日曜日 年末年始

地下鉄四つ橋線「西梅田」駅
南改札から南へ徒歩5分



ドージマ地下センター内MAP
西梅田駅
青森・岩手ええもんショップ
いごいご広場



**新規メール会員
募集中!**

◀ご登録はこちらから。
店舗で使える10%OFFの割引券を随時配信!

X(Twitter)を開設しました。

右の二次元バーコードよりアクセスいただくか
X(Twitter)検索で「青森・岩手ええもんショップ」と
検索をお願いします。



第13回北東北三県合同納涼ビアパーティー

杉田 清和(青森市)

真夏の太陽が照りつける7月20日に難波の道頓堀ホテルで「北東北三県合同納涼ビアパーティー」開催されました。去年までは梅田の「アサヒスーパードライ梅田」で行われておりましたが、店舗がなくなった関係で今回は「道頓堀ホテル」ですることになりました。ホテルなので最初は生ビールが飲めるのか心配しておりましたが、急遽ビールサーバーを設置して頂きました。オープン早々は喉が渴いている生ビール党が、サーバーの前で列ができておりました。余興では青森県から中川トシエさん、寺崎達也さんに三味線と民謡を披露して頂きました。秋田県からも三味線と民謡の披露があり、東北のにおいが会場内に充満、ドンパン節の踊りの輪が出来上がり、あっちこっちから楽しい笑い声が聞こえてきました。来年の幹

事県は青森県ですので、同じように楽しいひと時を過ごせるよう考えてまいります。



第106回全国高校野球選手権大会

戸澤 桐子(弘前市)

今年は阪神甲子園球場100周年の節目の年でした。惜しくもベスト8に終わったセンバツのリベンジを果たすべく、青森山田のみなさんは気合十分で、試合前に行われた激励会での「優勝してください!」との「檄」に応えてくれました。今年の夏の甲子園は天候に恵まれ1日も順延がなく、青森県人会の仲間がアルプスで連日(4

日間延べ52名)ねぶた囃子の熱い応援を繰り広げました。結果は青森山田初のベスト4という素晴らしいものでした。長い夏をありがとうございました。



三県合同かもめの会「社会見学と食事会」に参加して

須郷 恵美子(鶴田町)

9月22日三県合同かもめの会、秋のイベント「社会見学と食事会」が行われ、青森県から8名、秋田県から9名の参加がありました。

当日のお天気は、集合時は曇りでしたが途中から大雨となり、予定していた造幣博物館からの「大川散策」が、残念ながら出来ませんでした。それでもがんこ寿司天満橋店での食事は美味しく、メン



バーとの会話にあちこちで花が咲き、とても楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

秋のバーベキュー大会

泰山 和子(南部町)

10月13日(日)「秋のバーベキュー大会」が、17名の会員の参加があり京橋駅直結のBBQ奉行にて行われました。暦の上では「秋」でしたが、まだまだ暑さ



厳しい中での開催となりましたが、会員による焼き栗や枝豆の差し入れで秋を感じました。その他に玉子焼きや椎茸、ナス、キャベツなどの食材の持ち込みがあり、いつも以上に楽しいひと時になりました。

会場が京橋駅近くのイベント広場でしたのでダンス音楽がBGMとして聞こえ、ビールが普段にまして美味しく感じました。



あおもりひと 青森人の祭典に参加して

杉田 清和(青森市)

11月9日・10日に上野恩賜公園にて「青森人の祭典」が開催され、近畿青森県人会を代表して9日の式典に参列してまいりました。

当日は秋晴れの中、青森県の特産品のブースが50以上出店、ステージでは青森民謡、津軽三味線、手踊り等の披露があり、足の踏み場がないぐらい賑わっておりました。インバウンドの外国人も多くおられ、日本国青森県をアピールできていると感じました。2日間で13万人の来場があったとのことです。



寺崎 達也（大阪府）
 11月半ばで25℃という気候から、やっとと寒くなってきた11月24日に三陸寿しさんにて「かまりっこの会忘年会」が開催されました。
 「たげ、め〜」料理に皆さ



かまりっこの会初参加



ん、段々とこの会の主であるお国訛りの言葉で弾み、「なんぼあずましい」時間となりました。
 私ごとですが、この前の週も青森の方々や飲んだので、大阪出身の「わ」が訛ってくるという事態に（笑）皆さん、「わ」が大阪出身というたびつくり。
 後半は、わたくしの津軽三味線に三上さん、山田さんの唄っことで、熱く熱く盛り上がり、そしてお時間に。
 美味しい料理をご用意していただいた三陸寿しの皆さまにも大変感謝いたします。もっともっと喋っていたくなる会でした。ありがとうございました。

創立四十周年記念祝賀会

山口 義久（平川市）

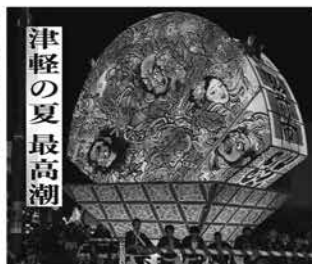
令和6年11月27日に、京都青森県人会は、リーガロイヤルホテル京都で四十周年記念祝賀会を開催しました。宮下知事は海外出張中だったため、代理として小谷副知事が、そして大阪情報センターから築田所長が出席して下さり、京都府知事の代理、京都市長の代理など、来賓が沢山来られました。
 県人会関係では、近畿の杉田会長をはじめ、東京、中部、広島からもご参加いただき、京都の県人会連合組織に所属する各道府県の県人会からも出席者が相次いで、一般参加者と合わせて90名近い賑や



ここでしか読めない記事を



満開の桜に酔う



津軽の夏最高潮



深まる秋美しく



銀世界、雰囲気盛り上げ

THE MUTSU SHIMPO
陸奥新報

■本社 〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 ☎0172-34-3111 (代)
 ■東京支社 〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル 13 階 ☎03-6228-4751

<https://mutsushimpo.com>



かな会になりました。

第一部の式典では、元会長の沼田廣さんの尺八に始まり、青森の祭囃子や渋谷和生さんの三味線演奏といった形で、青森の調べを披露してもらい、第二部の祝宴では、余興として津軽民謡の歌唱・演奏があり、終わりの祭囃子では正装のハネとも登場して場を盛り上げました。京都では県人会の歌がないので、最後の全員合唱は「りんごの唄」にしていますが、伴奏として、三味線、尺八、祭囃子にキーボードが加わって大合奏になったのは、なかなか見られない光景で圧巻だったと思います。

40年という歳月は、近畿の70余年に比べて短いのですが、振り返ってみるとそれなりの重みがあり、過去と同じようにはできないと思わされるような時代の変化もあります。しかし、この祝賀会を通じて、状況は変わっても県人会を支える原動力は変わらないことが実感できたような気がします。これから近畿青森県人会と連

携を保ちながら活動が続けていくことになりますので、どうぞよろしく願います。



忘年カラオケ会開催

古川 マツエ(中泊町)

師走の最初の日曜日、恒例の「みまさか」でカラオケ会を開催しました。

会員の皆様大多忙で参加人数が少なく……と思いきや心配ご無用。久々に宴会部長？の中川さん

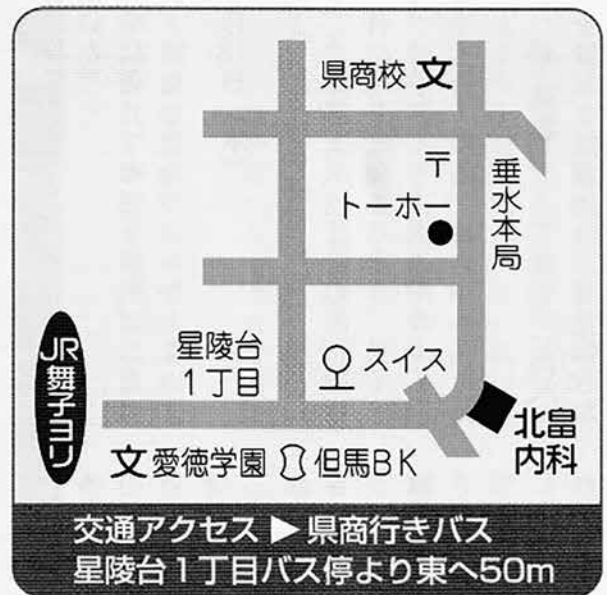
北畠内科

- 内科一般 ● 経鼻・経口胃カメラ
- 大腸カメラ ● 超音波検査(エコー)
- 検診一般 ● 健康相談

医療法人社団 北畠内科

理事長 北畠 千賀子
昭和35年度弘前高校卒業

院長 金城 東浩
医員 金城 和美



診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
AM9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
PM2:00~ 5:00	○	○	×	○	○	×	×

TEL078-709-5101 〒655-0032 神戸市垂水区星が丘1-4-19

が参加してくれ、十人力を得ました。

特有の小道具を持参していただき歌い手を次々と変身？させてくれる技は少しも衰えていませんでした。

昭和の懐メロから青春時代の舟木一夫が出現、勿論高校3年生になり、隣にセーラー服の女学生、マドロスさんが次々と登場し、元津軽のアネコ（娘）達が最高に会場を盛り上げてくれました。「みまさか」名物のおでん、ちらし寿司、他昆布巻き、茶わん蒸し等に胃袋が満たされ、仮装のおかげもあり、すっかり女学生や歌手本人になりきって熱唱しました。最後

は「みまさか」のママのさよならンバで幕となりました。皆さん有難う！



表紙を語る

古川 マツエ（中泊町）
奥津軽中泊町宮越家にある
小川三知作

大正ロマンの漂うステンドグラスが話題を呼んだのが、つい先刻。続いて9月17日宮越家の襖絵とイギリス、ロンドンの大英博物館が所有する襖絵と一連のものである事が公表されました。

1日80名という限られた季節の見学に希望者2800人も殺到

し、宮越家は嬉しい悲鳴をあげていると報道されました。

これは9代目当主正治氏が妻の誕生日プレゼントとして贈った離れ座敷（詩夢庵）に入れた襖絵が江戸時代狩野派の有能な作家？の作であると断定されました。

宮越家の襖絵は、春・夏・桜や雉の花鳥図等であり、大英博物館の襖絵は秋・冬の花鳥図等です。

保存状態が大変良く岩や花鳥の描き方、画風や引手の金具の模様や形が一致し、一連の作であることと決定づけられました。

元々は、奈良の淡山神社の所有であったが、その後



デザイン・印刷 アットフリー

檜垣達也

〒665-0033

兵庫県宝塚市伊子志 3-16-48

☎ 0797-74-1146

メール info@atfree.biz



広島青森県人会 顧問

石塚則昭

（大鰐町出身）

〒733-0035

広島市西区南観音 2 丁目 9-21-304

☎ 082-294-8546 携帯 090-6835-6099

東京で競売され、津軽に渡り翌年の関東大震災から免れて現存していると言われています。

詳細は「青森県中泊町宮越家」を引いてください。

※表紙への掲載は、現当主の寛氏から直接許可を得ております。

新入会員紹介

稲美 るみ子さん (青森市)



初めまして。令和6年9月より入会させていただきました稲美(いなみ)るみ子です。

近畿青森県人会とは、夏の甲子園高校野球「青森山田高校」の応

援が縁で入会させていただきました。

私は、青森市の出身で、そびえる八甲田連峰を眺めながら、合浦公園で花見をして、海水浴をして、最大イベントねぶた祭で盛り上がり、大雪の寒さにも耐え、青函連絡船が運航していた青森駅前最盛期の賑わいの頃、新町通りをブラブラしながら、高校時代を楽しく過ごしました。

卒業と同時に、美容師を目指して、憧れの東京へ行きたかったのですが、亡き父に、猛反対され、取り敢えず親戚の住んでいた大阪に向かい、それから東京に出ようと、青森を離れたのは一昔前の大阪万博の年でした。50年余り過ぎ、山あり谷ありの日々、結局東京には行けませんでした。目標が達成できたのは、津軽のじよっぱり根性が身についていたからと思っています。年齢を重ねた現在、あの時東京に出ていたら、おそらく青森に戻って、今頃は青森に住んでいただろうなあと思うことがよくあります。

くあります。

八甲田山が、津軽弁が、青森が、恋しいです。

現在は、娘時代から続けている卓球クラブにも所属して、体を動かし仲間と楽しんでいますが、私は食べることに、笑うことに、喋ること以外、皆さんの様な芸能的のことは全くできませんが、どうぞ宜しくお願いします。



箕面市立メイプルホール

2025年2月22日(土)・23日(日)

第20回 全国青森県民謡コンクール
第22回 全国津軽三味線コンクール

青森県郷土芸能協会(大阪大会実行委員会事務局) tel 090-9883-2589

〒562-0001

大阪府箕面市箕面5-11-23

TEL 072-721-2123

入場料 (1日) 前売り 2,500円
当日 3,000円

●出場者募集中

箕面市立メイプルホールへのアクセス方法

- ① 阪急宝塚線「石橋阪大前」駅で箕面線に乗り換え「箕面」下車 徒歩7分(阪急梅田・十三より)
- ② 大阪モノレール「蛍ヶ池」下車 阪急宝塚線に乗り換え「石橋阪大前」駅で阪急箕面線に乗り換え「箕面」下車 徒歩7分(伊丹空港より)
- ③ 地下鉄御堂筋線「千里中央」下車 阪急バスにて「千里中央」から「箕面警察署前駅」下車(新大阪駅より)

■主催 青森県郷土芸能協会

■共催 公益財団法人箕面メイプル財団

青森県郷土芸能協会(大阪大会実行委員会事務局)

Tel 090-9883-2589(電谷英明)

公式サイト <http://www.jyonkara.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/aomorikenmiyo>



スナック サンク

〒542-0084

大阪市中央区宗右衛門町5-4

日宝宗右衛門町エイトビル4階3号

☎ 06-6212-5020

青森の「今」を、
地域の「声」を発信！

YouTubeで配信中！




青森県知事の
新時代ちゃんねる
A-Tube Discover Aomori
with Our Governor




弘前市






みんなで未来を育てるまちに

青森市



ふるさと納税を活用した寄附による、青森市の取組の応援をお願いします。

自然が豊かでゆったりとした
あおもりの暮らしはいかがですか。



(一般の方)



(企業の方)




ひと・産業・文化が輝く
北の創造都市



八戸市



TOWADA "HIBI" COLLECTION.



あなたらしい暮らしがここ「とわだ」にあります。



十和田市
Towada City



みんながつながり達者に暮らす
笑顔あふれるまち 南部町



新田の歴史が彩る日本のふるさと

青森県 つがる市

TSUGARU CITY




TSUGARU CITY
ANNIVERSARY

りんご『ふじ』発祥の地。
緑あふれる食彩の里。

 **藤崎町**

<http://www.town.fujisaki.lg.jp>



馬・牛・鶏
このへ三大肉のハーモニー
【このへ三大肉ガイド】
ダウンロードはこちら



寒立馬と能舞の里 **東通村**
<http://www.vill.higashidoori.lg.jp>



歴史と海・山・川が
人と人をつなぐまち 鰺ヶ沢

白八幡宮大祭

日本道産認定
北前船寄附地

世界自然遺産白神山地
UGO 460

日本海の夕日を見ながら
おいしいピザとハンバーグはいかが



ローリエ

鰺ヶ沢町舞戸海岸通り
TEL : 0173-72-5993



越前 良子
(鰯ヶ沢町出身)
☎080-1512-6955

杉田 清和
(青森市出身)
☎090-8218-7855



檜垣 彰子
(むつ市出身)
☎090-9696-2281

丹藤 豊司
(弘前市出身)
☎090-9113-5874

須郷 恵美子
(鶴田町出身)
☎090-9218-6837

栗生 順子
(黒石市出身)
☎090-1152-2558

国カネショウ株式会社

りんごのふる里で生まれた味
カネショウのりんご酢たちです

本社: 弘前市龍王町15-23
工場: 平川市日沼裏田30-12

フリーコール 0120-30-0231

安田 良造
(つがる市出身)
☎090-1910-1647

古川 マツエ
(中泊町出身)
☎090-3722-9914

亀田歯科医院
院長 亀田 潤
(兵庫県出身)
☎078-691-4312

泰山 和子
(名川町出身)
☎090-4296-1269

令和7年度事業計画(案)

	主 要 事 業 内 容	理事会 予定日	他県人会行事
1 月	会報誌「近畿とあおもり」発行 定時総会・新春懇親会(1/26)	1 月 1 4 日	京都青森県人会総会・懇親会 京都女子駅伝 広島青森県人会総会・男子駅伝
2 月	青森県郷土芸能協会民謡(2/22) 三味線(2/23)		中部青森県人会総会・懇親会
3 月	甲子園選抜(青森山田高校)	3 月 1 1 日	
4 月	お花見の会 3県合同「かもめの会」総会・懇親会(4/13)		
5 月	春のカラオケ会	5 月 1 3 日	
6 月	第4回芸能発表会(6/8) 万国博覧会ねぶた祭(6/14・15) 「かまりっこの会」社会見学と懇親会		
7 月	北東北3県合同納涼ビアパーティー(7/19) 県人会便り16号発行	7 月 8 日	
8 月	夏の高校野球応援(甲子園)		
9 月	3 県合同「かもめの会」社会見学と懇親会	9 月 9 日	
10 月	BBQ バーベキュー		
11 月	「かまりっこの会」忘年会 忘年カラオケ会	11 月 11 日	東京青森県人会 「青森人の祭典」
12 月	3県合同かもめの会忘年会		

三 上 整 骨 院

〒555-0001

大阪市西淀川区佃3-14-29

☎&Fax 06-6471-3664

編集後記

明けましておめでとうござい
ます。新しい年を迎え、会員の皆様
におかれましては、穏やかな良いお
正月をお過ごしのことと存じます。

おかげさまで、会員相互の親睦
を図り、ふるさと青森の近況など
をお伝えすることを目的に刊行し
てまいりました会報誌「近畿とあ
おもり」無事に第69号を発刊する
ことが出来ました。

今年はいよいよ大阪・関西万博
が開催される記念すべき年になり
ます。「いのち輝く未来社会のデ
ザイン」をテーマに世界中から
人々やアイデアが集まる大イベン
トがこの大阪夢洲で、前大阪万
博から55年振りに開催されます。

聞くところによると、青森ねぶた
が6月中旬、万博会場に出陣する
との情報もあります。当然ながら
跳人募集もあると思われますので、
体力自慢のハネト希望の方は楽し
みにして頂けたらと思います。

本年も、ふるさとを想う皆さま
との絆を深め、県人会の活動をよ
り充実させていきたいと思ってお
ります。本号では慣れない編集作
業で、至らない点が多々あったか
と存じますが、ご容赦頂けますと
幸いです。今年も皆さまにとつて
良い年になりますようお祈り申し
上げます。

〈編集委員〉

杉田 清和・古川 マツエ・
瓢 優美



発行 近畿青森県人会

〒530-0001

大阪市北区梅田1-3-900

☎ & FAX 06・6341・2231

2025 新年号 令和7年1月発行 69号

尾上町（現平川市）出身

山口 義久

京都青森県人会事務局
関西鏡ヶ丘同窓会事務局

〒606-0807

京都市左京区下鴨泉川町55
☎ 075（701）5767



津軽三味線



寺崎 達也
TERASAKI TATSUYA

Email terasun39@gmail.com



電気って、 あたたかい。

電気が灯る場所には、人がいる。ぬくもりがある。

だから守り続けたい。24時間365日、電気を絶やさないための発電。

中でも発電時にCO₂を出さない原子力発電や再生可能エネルギー、
ゼロカーボン化に向けた新技術は今後ますます重要になります。

電気が灯るあたたかい時間がずっと続きますように。

関西電力は、みなさんと同じ未来を見つめています。

原子力・火力・再エネで、これからも。